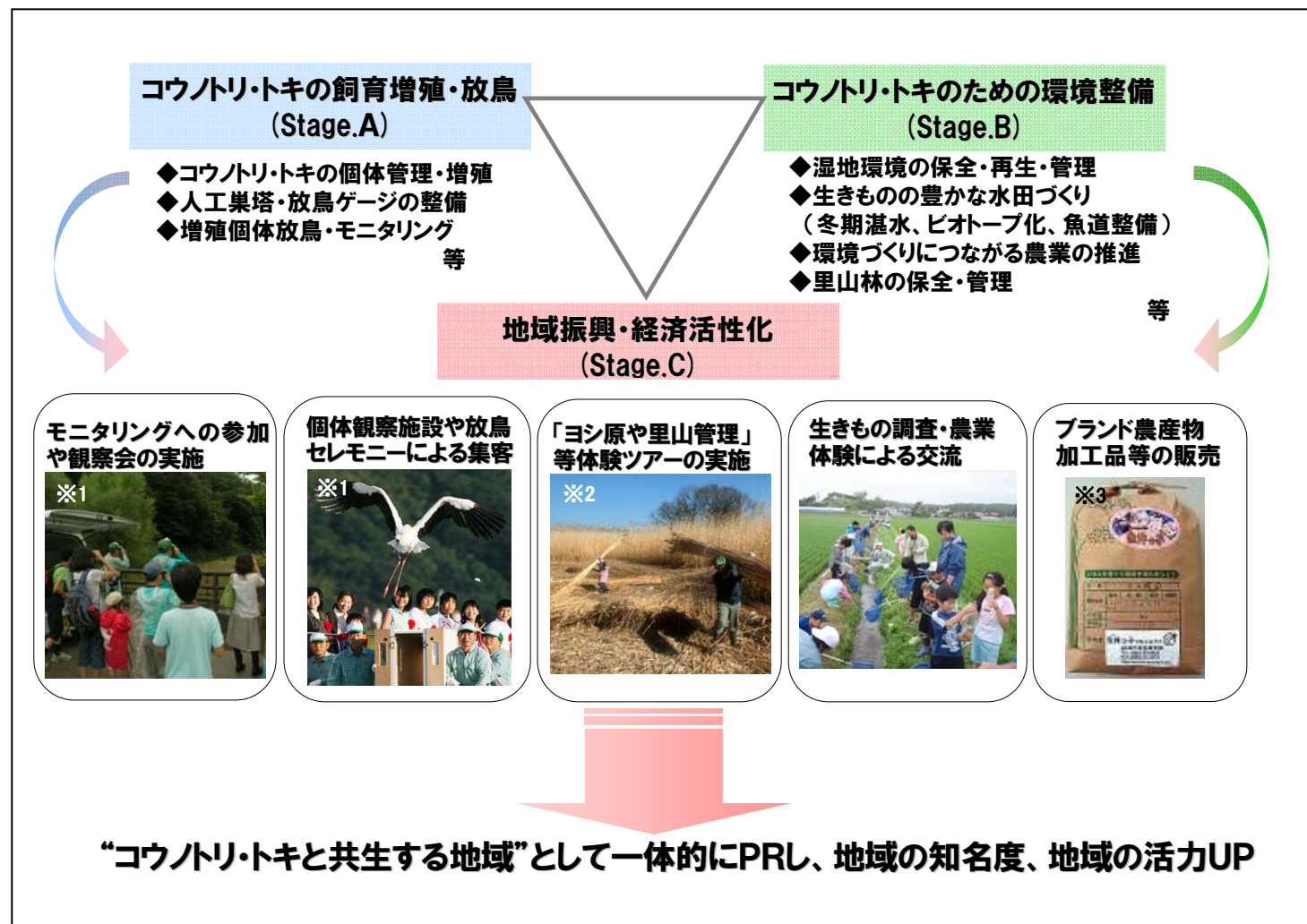


■地域振興・経済活性化へ向けた展開

コウノトリ・トキの野生復帰を通じた地域の経済活性化や地域振興は、飼育増殖・放鳥のための「Stage.A」、生息環境づくりのための「Stage.B」における施策の推進の中で、地域内外の多くの人々にアピールし注目を集め、興味・関心を引きつけ関連するプロジェクト・イベントへの参加や、来訪、支援を促すことで生まれてくる。

このため、「Stage.A、B」の取組を効果的に実施していく社会基盤づくりと、各エリアの地域ごとの個性を反映した、インパクトのある魅力的な地域づくりコンセプトに基づく、イメージの確立とPRが重要となる。



地域振興・経済活性化への展開イメージ

■地域振興・経済活性化に向けての課題

- 各エリアの差別化を図るための、エリアごとの自然環境、歴史・文化資源、コウノトリ・トキに関する史実などの地域の個性・特色の情報活用
- エリア内での統一コンセプトに基づくブランドイメージ確立のための場づくり
- 南関東エリア全体のプロジェクトとして、一体的なプロモーションの実施や取組支援のための体制づくり
- 環境と経済の共鳴に賛同する企業・事業者など、多様なセクターの参加の促進
- プロジェクト推進による社会経済効果のモニタリングと情報発信

■地域振興・経済活性化に向けて求められる取組メニュー(例)

コウノトリ・トキと共生する地域社会づくり

- 住民が参加するしくみをつくる
 - ・コウノトリやトキを受け入れるための環境教育
 - ・参加や支援が可能な取組（モニタリング、監視員など）の情報発信
 - ・参加できる活動拠点・団体などの発信・しくみづくり



- 地域全体での盛り上げを演出
 - ・コウノトリやトキをシンボルとした看板や施設整備
 - ・ローカルテレビ・新聞などでの継続的な情報発信



コウノトリ・トキとの共生を活かす

- コウノトリやトキを目玉とした集客
 - ・体験拠点の整備や地域資源・歴史文化との関連性を活かしたメニューの検討
 - ・ツアーガイドやコーディネーターの育成
 - ・旅行業者や交通機関との連携



- ブランド商品(農産物・加工品など)の販売
 - ・農産物、加工品などの開発
 - ・道の駅、アンテナショップなどを活用した販売促進



取組の普及啓発・継続に向けて

- 地域外の支援者や来訪者による支援体制づくり
- 南関東エリア一体となった取組PR、プロモーションの実施



<資料内写真出典>

※1:豊岡市 HP ※2:渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会HP ※3:JAおやまHP ※4:我孫子市HP ※5:福井新聞
 ※6:グリーンHP ※7:コウノトリファンクラブHP ※8:JRグループHP その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影

南関東各エリアが目指す、“コウノトリ・トキをシンボルとした地域づくり”のコンセプト

各エリアは、地域の持つ自然環境や社会条件、歴史文化等の特性を活かして、コウノトリ・トキと共生する地域づくりのコンセプトに基づいた地域将来ビジョンを明確にし、エコロジカル・ネットワークの形成と地域振興・経済活性化に向けた、地域のプロモーションやブランドづくりに取り組むことが求められる。各エリアの個性に応じた地域づくりのコンセプトは以下の通りである。

◆本州最大規模の一大湿地にコウノトリ・トキが暮らす 豊かな自然と人の営み、歴史が育む『渡良瀬遊水地エリア』

- 本州以南最大の広大な湿地で展開される、湿地の保全・再生や、周辺水田で生きものに配慮した農業が進められ、多くの命を育む首都近郊の一大水辺環境拠点
- 地域のシンボルとして広く地域住民にも認識される渡良瀬遊水地の国際的評価に伴い、首都圏はもとより世界に向けた魅力の発信が可能
- 足尾銅山の公害、ヨシズ産業など人の暮らしや営みと自然との係わりを学ぶ地域固有の環境資源が豊富



※1

◆運河が刻む歴史と谷津にコウノトリ・トキが翔ぶ 環境共生先進地『利根運河周辺エリア』



- 利根運河を軸とするエコロジカルネットワークやフットパスを活かし、都市住民をターゲットとするエコツーリズムの展開
- 江川地区、新川耕地、田中調節池などのコウノトリ・トキが生息可能な大規模緑地空間を安らぎの場、農業体験、歴史体験の場としても一体的に提供
- エリア内に多い大学等との連携により、コウノトリ・トキや環境に係わる先端情報の発信・活用による地域づくり

◆日本を象徴する里地里山にコウノトリ・トキが棲む 世界に開かれた玄関口『北総(印旛沼・手賀沼)エリア』



※2

- 日本の里を印象づける、「手賀沼」「印旛沼」「利根川」の水辺と周辺に広がる里山環境
- 地域に残るコウノトリ・トキとの歴史のPR
- 成田高速鉄道、北千葉道路の整備に伴う、成田・羽田空港との直結による海外・全国からの玄関口としての役割
- 外国人観光客にアピールする里山の「伝統」と「近代」の都市が共存する地域

◆房総の森や田でコウノトリ・トキと共に生きる 里山スローライフを提供する『房総中部エリア』



- 里山での環境に優しい農業、ローカル鉄道によるのんびりした旅など、近年のLOHAS、スローライフなどの新しい時代や世代の暮らし・旅のスタイルを提供
- アクアラインや圏央道の整備による都心からのアクセス向上を活かした房総周遊の観光客・移住者の獲得
- 地域に残るコウノトリ・トキとの歴史や物語をPR

※3

首都圏 4,200万人の人口と、 成田・羽田空港からの訪日外国人 480万人／年をターゲットに 南関東各エリアの生態系サービス 向上の取組をPR・情報発信!!



- 日本一の川幅、県土面積に占める河川割合全国一の広大な河川数に残る河畔林、水田、湿地や旧流路からなる心安らぐ自然環境
- 荒川太郎右衛門自然再生事業等の全国最先端の「荒川流域エコロジカル・ネットワーク計画」が進行中
- 圏央道・上尾道路の整備に伴う東京からのアクセス改善を活かした集客や地域づくり

◆首都圏にあってコウノトリ・トキが広大な河川敷や水田を舞う 安らぎのアーバンネイチャー『荒川流域エリア』



<資料内写真出典>

※1:古河市 HP ※2:印西市HP ※3:房総LIFEホームページ ※4:(社)千葉県農業協会 その他印のないものは(財)日本生態系協会撮影